2026年度

まちだづくり応援基金

まちだづくり応援基金

MACHIDA CHALLENGE FUND

目次

1. まちづくり応援基金とは
2. 2026年度選考結果
3. 2026年度 助成対象一覧
4. まちづくり応援基金助成対象インタビュー
   - 4-1 こどレスひろば
   - 4-2 清住平 Wind Music
   - 4-3 師親会
   - 4-4 佐藤 恵氏
   - 4-5 LAUGH-顔晴れ-KAOBARE
   - 4-6 あとりえ紅心
   - 4-7 就労移行支援事業所ワン・ブリッジ町田
   - 4-8 町田emoプロジェクト
   - 4-9 まちだサポーターズ

1. まちだづくり応援基金とは

町田の新しいチャレンジを応援する基金

町田市内で活動する方を応援したいという想いを持った方からのご寄付により、**「まちだづくり応援基金」**を設立いたしました。
本基金により町田市のまちをよくする志をもった個人、団体の「新しいチャレンジ」にあたる取り組みに対して助成します。

応援基金の目的

①志を応援しあうまちにする
町田で活動する方・町田で暮らす方・町田に想いのある方が町田市内でまちづくりに取り組む個人・団体のチャレンジを応援し、志を応援しあえるまちにする。

②小さなチャレンジを後押しする
小さくても新しいユニークなチャレンジをする人を後押しする。新しいチャレンジだからこその失敗も歓迎し、失敗からも学び合えるまちにする。

2. 2026年度 選考経過

本事業には13件（11団体・2個人）の応募があり、選考会議にて、9件（8団体・1個人・助成総額325,407円）の活動が助成対象として採択されました。7月7日のプレゼンテーション審査、7月10日の選考会議と2日間にわたって実施された選考委員会では、公募により決定した5名の選考委員の皆さんが様々な角度から評価し、総合的に助成対象を決定しました。

選考委員会で評価された活動の良かった点

- 企業からの協賛金をもらうなど、持続可能な運営の工夫がしっかり検討されていてよかった。
- 本人の「好き」「得意」を通じて地域に貢献したいというチャレンジの姿勢を応援したいと思った。
- 応募金額も細かく金額設定をされていて、まじめでコツコツと進めていく方という印象を持った。

選考委員会で採択/不採択問わず指摘があった点

- 課題となっていることの原因を洗い出し、有効なアプローチを検討して進めていくことが必要。
- 理想とするまちに対し、自分たちが担う部分はどこなのか。できたコミュニティをどうしていきたいのかをメンバー間で話し合ってほしい。

3. 2026年度助成対象一覧

団体名・個人名	事業	助成額（円）
こどレスひろば	見守り付き親子の居場所「こどレスひろば」	50,000
清住平 Wind Music	小山田で音楽活動を通じて、地域住民の交流を深める！『OYAMADA JOYFUL FESTIVAL-おやまだじょいふるフェス-』の開催	50,000
師親会	図師地域における郷土芸能 縁日体験による地域交流イベント	50,000
佐藤 恵	０歳からのファミリーコンサート「音のとまり木」	46,960
LAUGH-顔晴れ-KAOBARE	みんなのふれあいひろば	31,447
あとりえ紅心	疲れたあなたに癒しの彩り文字ワークショップ	50,000
就労移行支援事業所ワン・ブリッジ町田	運動を通じて障がい者と健常者の交流を促進し、地域全体で支え合える町田市を目指す	25,000
町田emoプロジェクト	孤独ゼロへ！町田emoアクション2026 〜自然体験と交流で心をひらくコミュニティづくり〜	12,000
まちだサポーターズ	あと一歩の踏み出しでボランティアに参加できる人を応援する	10,000

4. まちだづくり応援基金助成対象インタビュー

助成による活動のスタートにあたって、採択された9件（8団体・1個人）に、活動への想いや今後の意気込みを語っていただくインタビューを実施しました。

インタビュアーは、今夏さがまちインターンシップ（運営：さがまちコンソーシアム）のプログラムで、８日間サポートオフィスでインターンシップを行った大学生とサポートオフィススタッフです。

次ページ以降にインタビューの内容を掲載しています。ご覧ください。



4-1 こどレスひろば

Q1　活動内容について教えてください。

　見守り付き親子の居場所です。昨年度4月から活動をスタートしました。こどレスひろばでは、0歳から3歳の親子を対象としています。スタッフがお子さんを見守っている間に親御さんは他のことをしたり、ゆっくり休んだりすることができます。また、ベビーマッサージ、ベビトレヨガ、子育て講座などもやっています。

Q2　こどレスひろばという名前について教えてください。

　レスは、「こども×rest（休息）」という意味に加えて5つの「レス」が含まれます。「ジェンダーレス」、「エイジレス」、「ボーダーレス」、「プライスレス」、「ノーストレス」の5つのレスです。性別、年代、立場問わず、こどもを支える全ての方々を応援していきたいという想いをこめています。

Q3　活動のやりがいは何ですか？

　利用者さんに、「託児でも子育て広場でもない、ありそうでなかった場所」と喜んでいただけたことです。

　また、こどレスひろばは、保育園や幼稚園とは違った居場所ではありますが、スタッフは、保育士、小学校教員、放課後児童支援員といった専門性もあり、そういった視点からも利用者さんにお子さんの様子をフィードバックできるので「子どもの発育のことで心配していたけどお話を聞いて安心できました」などの声をいただけています。そうしたお声をいただけるのもやりがいとなっています。

4-1 こどレスひろば

Q4　こどレスひろばの今後の目標は何ですか？

　いずれは、固定した居場所を持ち、行きたいと思う日にふらっと来れる居場所をつくりたいと思っています。今のこどレスひろばは、和光大学ポプリホール鶴川プレイルームを毎回お借りして実施しています。毎回、荷物を持ってくるので、その時参加した親子のニーズに合わせたおもちゃなどを用意することが難しかったりします。また、その場が「何かやってみたい気持ちはあるけど、一歩踏み出せない」という保護者の方が新たな挑戦をして、保護者の方が学び合える場になればと思っています。今回のまちだづくり応援基金は、そこにつながる活動として、毎月様々な講座を企画することにチャレンジします。

Q5　最後にメッセージをお願いします。

　こどレスひろばでは、子育てが「楽しい」と感じられるように、そして地域みんなで子育てできるようにという想いを大切にしながら活動しています。現在、資格や経験問わず、一緒に活動してくださるボランティアさんを募集しています。

　「想いに共感した」「一緒に何かしてみたい」と思ってくださった方がいましたら、ぜひお気軽にご連絡ください。子育てを地域で一緒に支えていけたらうれしいです。





4-2 清住平 Wind Music

Q1　活動内容について教えてください。

私たちは、地域のご近所さんが集まって結成したご近所バンドです。月に2回集まって練習をしているほかに地域のお祭りやイベントに参加しています。メンバーの中には、お祭りで演奏しているのを見てグループに加わった人もいます。主な練習場所は、町田福祉園です。

お祭りでは『マツケンサンバ』を演奏し、自作のサンバ棒を来場者の方々にお貸しして、一緒に踊って盛り上がります。今年は『北酒場』も練習しており、来場者の中からお一人、ゲストとして歌っていただいています。10月に予定しているお祭りでは、サカナクションの『夜の踊り子』を披露して、会場の皆さんと踊る予定です。Instagramの投稿を見た地域の方が楽しみにしてくれています。

Q2　皆さんのバンドの魅力や楽しみは何ですか？

私たちは、地域の方々が世代や演奏経験の有無に関係なく集まり、一緒に音楽を作ることを楽しんでいます。メンバーの仲も良く、お互いに意見が言い合える関係性です。最初はうまく出来なくても練習していくうちに上達していくことにやりがいや楽しみも感じています。メンバーの中には演奏することが自身の認知症の予防になっていると言う方もいます。



4-2 清住平 Wind Music

Q3　今後の目標を教えてください。

　まちだづくり応援基金2年目となる今年度は、昨年度初開催した「OYAMADA JOYFUL FESTIVAL-おやまだじょいふるフェス-」の企画や運営に地域の方々に参画していただくことで、地域の皆さんと一緒に創り上げるイベントとして育てていきたいと考えています。

　今回も音楽団体の発表の場にとどまらず、地域の繋がりを深め、地域が一体となるイベントにしていきたいです。昨年度開催したときも最後の片付けなどを地域の方が手伝ってくださり、地域のつながりや力を感じました。今年はさらに地域の方々に協力していただく機会を作りたいと思っています。

　その他にはSNSでの情報発信も力を入れていきたいです。主にInstagramで情報発信を行っているのですが、最近ではある投稿が約1000回再生されました。SNSを通して音楽の楽しさを伝えていけたらと思います。





4-3　師親会

Q1　団体始動のきっかけや主な活動内容は何ですか？

　私たち師親会の母体となるのは、図師熊野神社で150年続くお囃子連です。毎週土曜日にお稽古を行っており、現在も多くの子どもたちが参加しています。

　師親会を立ち上げたのは、子どもたちの活動を支えるPTAや後援会のような役割を保護者のみんなでできないかということと、図師に限定せず町田の伝統芸能を広く知っていただき、文化を絶やさないために自分たちに何かできないかと考えたことがきっかけです。そこで私たちは、お囃子を知ってもらう体験型イベントを軸にさまざまなお祭りやイベントに出向いていこうと考えました。今年だけでも20以上のお祭りやイベントへの参加が決まっています。会員それぞれの人脈で出店が決まったものもあれば、Instagramで情報発信をしているので、それを見てお声がけいただいたケースもあります。

Q2　まちだづくり応援基金の活用方法について教えてください。

　私たちは今年できた団体なので、今回まちだづくり応援基金の助成が決まったことは、団体として認められた記念だと思っています。そのため、長く使うことができる太鼓やお面、獅子頭などの購入費用に充てたいと思っています。

4-3　師親会

Q3　今後の展望について教えてください。

　実は原町田6丁目盆踊り大会では、高齢化に伴い櫓（やぐら）を立てられなくなり処分を考えていたとのことだったので、今回師親会で譲り受けることになりました。自分たちが引き取ることで、各地のお祭りを盛り上げていけたらと思っています。

　お囃子に限らず、伝統文化全般を広め守っていくために、師親会としてもいろいろなことにチャレンジできればと思っています。



4-4　佐藤　恵

Q1 活動をはじめたきっかけや現在の活動について教えてください。

　もともと音楽大学でマリンバを専攻していました。在学中から子ども向けの活動をしたいと思い、リトミック（音楽を聴いて体を動かすことで、リズム感、表現力、集中力などを育むスイス発祥の音楽教育法）の資格も取得し、卒業後は、子ども向け・ファミリー向けのイベントを中心に演奏活動やリトミック講師をしていました。3年ほど前に結婚を機に町田市へ引っ越してきたのですが、妊娠・出産を迎えたことで一度仕事をお休みしました。現在、2歳になる子どもの子育てに奮闘中なのですが、「今の自分にできる形で、子どもたちと音楽を通して関わる仕事をしたい」と思い、町田で活動を再開しました。現在は単発のリトミックレッスンや、季節に応じた子ども向けの小規模なコンサートなどを主催しています。

Q2　今回「まちだづくり応援基金」に応募されたきっかけや、まちだづくり応援基金を活用した新しいチャレンジについて教えてください。

　現在は、和光大学ポプリホール鶴川のリハーサル室などを利用し、定員5組を1日に2回といった少人数でアットホームなイベントを行っています。今回のチャレンジは、「その輪をさらに広げ、より多くの方に音楽を届けること」です。今までよりも大きな会場を使い、演奏の編成（楽器）を増やして曲の幅を広げたり、耳だけでなく目でも楽しめるシアターを取り入れた演出を行ったりと、表現の幅を広げたいと考えています。

　実は、私の出身の山形県で子ども向けのイベントを行う際に、公的な補助金やサポートを受けて開催させて頂いたことがありました。町田で新しいことをしたいと思った時に、そのことを思い出してインターネットで検索していたら「新しいチャレンジを応援する」という趣旨のまちだづくり応援基金を見つけたのです。

4-4　佐藤　恵

Q3　佐藤さんのイベントの魅力は何ですか？

一番の強みは、「木琴やマリンバ、ギターといった『木』を使った楽器を中心としていること」です。日常では触れる機会が少ない楽器ですが、木のぬくもりが感じられるとても柔らかく優しい音がします。また、特に木琴などの打楽器は「触るとすぐに音が出る」ため、子どもたちが最初に触れる楽器としてもぴったりです。

Q4　佐藤さんは、会の名前を「きじばと音楽教室」としていますが、名前の由来を教えてください。

以前、リトミックのレッスン中に子どもが「こんな鳴き声の鳥知ってる？」と「ホーホホッ、ホッホー」とキジバトの鳴き声をまねっこして聞かせてくれたことがあり、鳥の歌声をよく聞いて覚えているなんてすごい！と感動しました。もともと鳥が好きだったのですが、鳥たちの歌声ってすごく個性的で、よく聴くときじばとの鳴き声も一羽ずつ違ったりするんですよね。子どもたちにも鳥のように伸び伸びと自由に音楽を楽しんでほしいという思いから、この名前をつけました。

Q5　今後の展望や、やってみたいことを教えてください。

私自身が町田で子育てをする中で、「気軽に出かけられるコンサートが身近にあったらいいな」と感じています。ふとした時にと思い出してもらえるような、継続した活動を届けていきたいです。

今後も季節ごとのイベントなどを大切にしながら、親子で楽しめる音楽の場を少しずつ広げていきたいと思っています。



4-5　LAUGH-顔晴れ-
KAOBARE

Q1　活動をはじめたきっかけと活動内容を教えてください。

現在、定期的に開催しているのは、子ども向けの発育ダンスプログラム「FAN FAN DANCE」、「大人のバレトン部」（フィットネス・バレエ・ヨガの3つの要素を組み合わせた有酸素運動）、そして高齢者施設での楽しく体を動かすプログラムです。

私はもともと劇団四季の団員でした。その頃に「子どもと触れ合う仕事がしたい」と思い、ベビーマッサージの資格を取得して、退団を機にワークショップを始めたのがきっかけです。ただ、当時は集客も難しく、なかなかうまくいきませんでした。その後子どもが生まれ、「子どもと一緒に体を動かす活動がしたい」と思うように。そこで発育ダンスを学び、親子向けの活動「FAN FAN DANCE」をスタートしました。

さらに「シニアの方にも楽しく体を動かしてもらいたい」と考えたのですが、最初はどこから始めれば良いかわからず、高齢者施設で清掃のアルバイトをはじめました。実際に働く中でヒアリングしてみると、施設側には講師を呼ぶ予算がないことや、すでに決まった方が来ていて新しいプログラムの導入が難しいことが見えてきました。「ボランティアなら受け入れてもらえるかもしれない」と思い登録した所、今では高齢者施設からお声がけをいただくようになり、座ったまま楽しく体を動かせるプログラムを提供しています。

Q2　団体名の由来を教えてください。

劇団時代の先輩がつくった大好きな歌で、「LAUGH」と「顔晴れ」という歌があります。「頑張れ」だと肩に力が入った感じになりますが、この歌ではがんばれを「顔が晴れ晴れする」という意味で「顔晴れ」と表現しています。いつか自分で活動を始めるときは、この2つの言葉を名前に入れたいとずっと思っていました。

4-5　LAUGH-顔晴れ-KAOBRE

Q3　LAUGH-顔晴れ-KAOBAREの強みはなんですか？

「発育ダンス」「ベビーマッサージ」「バレトン」「アロマ」「キットパスアート」など、幅広いジャンルのプログラムを提供できることです。私は好奇心が旺盛で、これまでさまざまなことを学び、資格を取得してきました。以前は「ひとつのことに絞れていないのでは」と悩むこともありましたが、最近では逆にそれを強みにしていこうと考えています。

Q4　まちだづくり応援基金でチャレンジしたいことと今後の目標について教えてください。

地域の多世代が集まって、いろいろなプログラムを楽しめる「みんなのひろば」という活動をしたいと思っています。目標は、決まった場所で継続して開催していくことです。ふらっと立ち寄れて、子どもから高齢者までみんなで楽しめる場にしていけたらと思っています。まずは自宅近くの町内会館を拠点にできたらいいな、と考えています。



4-6 あとりえ紅心

Q1　主な活動内容を教えてください。

　彩り文字の体験会などを開催しています。彩り文字とは、伝統的な書の技法に色彩豊かな日本画の絵の具「顔彩（がんさい）」の色彩を融合させたアートです。皆さんは、書道は墨を使って書く作品だと思っていませんか？彩り文字は書道と違って色を楽しむアートであり、概念に縛られず自分が書きたい文字や色を使って自由な作品を作れます。人により色や字のバランスにも個性が出ることもありますが、その違いがこの彩り文字の良さなのです。

Q2　書道と色彩を融合させたきっかけは何ですか？

　私自身、小学校の頃から書道を続けてきて現在は人に教えています。私の書道教室に通われていた方たちの中に長く書道を続けたいけど介護などご家庭の事情でできなくなった方がいます。そうした方々にちょっとした時間に疲れた気持ちを彩り文字で発散してもらうということができたらよいなと思ったのがきっかけです。色を楽しむアートなので文字の形や筆遣いを気にせずに気軽に取り組んでいただけます。

Q3　あとりえ紅心の今後の目標は何ですか？

　今年はまちだづくり応援基金を活用して家族の介護をしている人向けの体験会を開催したいと思っています。直近では、お寺と彩り文字をつなげることを目的に、9月20日、22日に寺フェス2026というイベントに参加する予定です。お寺には書道など文化的なことが好きな方が集まることが多いですし、仏教と書道の繋がりはとても深いので、いろんな方に知ってもらう機会になればと思っています。

　11月30日には町田市庁舎2階市民協働おうえんルームで体験会も行いますので、ぜひお越しください。

4-6 あとりえ紅心

Q4　活動に参加したい人へメッセージをお願いいたします。

　あとりえ紅心は、公式LINEとInstagramといったSNSでも情報を発信しています。活動場所である町田市山崎団地は町田駅から急行のツインライナー(連結バス)を乗れば4駅と、意外と交通も便利です。

　あとりえ紅心は、体験会も随時開催しているので是非参加してみてください。





4-7 就労移行支援事業所 ワン・ブリッジ町田

Q1　企画内容は何ですか？

運動を通じて、障がいのある方と地域の方が一緒に楽しみ、交流できる運動会を企画しています。障がいの有無に関わらず、誰もが気軽に参加できる場をつくり、地域の中でお互いを知り、支え合える関係を繋げていくことを目指しています。

Q2 運動会の開催内容は何ですか？

開催時期は11月から12月を予定しています。場所は町田市内の体育館を利用して、参加人数は80名を予定しています。競技内容は、〇×クイズ、ラッキー選手権、だるまさんが転んだ、大玉送り、玉入れ、ユニバーサルスポーツでもあるシッティングバレーなどを検討しています。

Q3　一番の楽しさは何ですか？

立ち上げに関われる楽しさがあります。思い通りにいかないことや難しいこともありますが、メンバーと話し合い、解決していけるよう心がけています。

また、外部の方にも運営協力として入っていただいているのでコミュニケーションの楽しさもあります。ワン・ブリッジ町田にとっては今までで一番大きなプロジェクトではないかと思います。徐々に形になっていくことでイメージが膨らんできています。きっと実施できたときには達成感もあるだろうな、と思います。

4-7 就労移行支援事業所 ワン・ブリッジ町田

Q4　運動会に一緒に参加することはできますか？

　ワン・ブリッジ町田では現在、イベントの運営を手伝ってくださる方を募集しています。また、当日の運動会に参加してくださる方も今後募集していきます。詳細は随時アップしていきますので、ホームページやInstagramをチェックしていただけると嬉しいです。

Q5　ワン・ブリッジ町田としての今後の目標は何ですか？

　雇用の受け入れ先として企業の方々に知っていただくのはもちろん、地域の方々にも就労移行支援を知っていただき、地域をよりよく変えていきたいと思っています。またその輪を町田だけでなく、町田を中心にさらに外へ広げていくことで一緒に地域を盛り上げていきたいと考えています。



4-8 町田emoプロジェクト

Q1　主な活動内容を教えてください。

主な活動内容はごみ拾いとジョギングを融合させたスウェーデン生まれのスポーツのプロギングです。活動を始めたのは、2024年の夏からです。活動のねらいは、色々な年代の人たちが社会でつながるきっかけづくりです。プロギングをすることによる楽しさや人のつながりが生まれるといった効果を感じて活動を継続しています。その他にも、自然と人をつなげるという目的で町田市の忠生公園で自然観察会等も行っています。今後は、他の地域でもプロギングを広げることを目指しています。

Q2　町田emoプロジェクトの強みは何ですか？

地元町田市に対する参加者の思いがとても伝わってきます。また、活動の時には、参加者の皆さんが準備などを自発的にやってくれています。学生さんも参加してるのですが、みんなで1つになって活動できていると感じます。町田emoプロジェクトは、参加者全員が協力的に活動できていることが強みです。

Q3　応援基金を通じてチャレンジすることについて教えてください。

応援基金を活用して、活動後に交流会の時間を開催するなどバージョンアップした活動を目指しています。学生と一緒に活動出来る時間が増え、学生自身が自分の気持ちを私たちに伝えることが出来るようになってきているので、孤独を感じさせない環境づくりも目標としています。その他に、農業体験なども実施していく予定です。

Q4　今後めざしていることについて教えてください。

SNSを通じてプロジェクトを多くの人に知ったもらいたいです。また、のぼり等を置いて、ふらっと来た人でも参加できるように工夫し、「来てくれた人がプロギングの魅力を次の人に伝える」というような活動にしたいです。

4-9 まちだサポーターズ

Q1　活動内容を教えてください。

私たちまちだサポーターズ（通称まちサポ）は、「スポーツ祭東京2013」の町田市開催競技の運営ボランティア公募をきっかけに誕生した市民ボランティア団体です。

発足当時から登録されている方に加え、随時新しいメンバーをお迎えし、現在も約300人のメンバーがFC町田ゼルビアホームゲームやASVペスカドーラ町田ホームゲーム、子ども関連のイベントや国際版画美術館など、様々なジャンル・規模のイベントでボランティア活動をしています。メンバーの年齢構成は、下は中学生～上は90歳近い方まで、バラエティあふれる方々が集っています。

Q2　この活動のやりがいや醍醐味は何ですか？

「いつもありがとう！」という喜んでくださっている方のお顔を見るのがやりがいにつながっていますし、観客やお客さん、主催者などと「楽しかったね」「勝ったね」など、その時の気持ちを一緒に分かち合える瞬間が嬉しく、やりがいにつながっています。

また、活動を通じてこれまで行ったことがないところに行けることも楽しみの一つです。そのことで町田の魅力をたくさん知ることができましたし、普段生活していると関わることがないような様々な世代・キャリアの方々と出会え、自分の人生や経験が広がっていくのも醍醐味です。

4-9 まちだサポーターズ

Q3　応援基金を通じてチャレンジすることについて教えてください。

　これまでは、メンバー向けのスキルアップ研修や交流会を年に3回ほど行っていましたが、組織内のメンバーを対象としたものばかりでした。これからはもっと多くの若い世代を仲間に迎えたく、その初めの一歩として、メンバーではない方を対象とした講演会の企画をつくりました。これが私たちにとっての新たなチャレンジです。開催日は12月4日に決定しました。当日は日本代表を応援するだけでなくサッカーを通じたボランティア・寄付活動を展開しているツノダヒロカズ（通称ツン）さんにお越しいただく予定です。この講演会では「ボランティアの一歩を踏み出す」をテーマにお話をいただき、ボランティアの楽しさ、醍醐味を皆さんと分かち合えたらと思っています。予算がなかったので、今回まちだづくり応援基金で私たちの新しい取り組みを応援してもらえることは、本当に心強いことでした。

　皆さまのお越しをお待ちしています！

Q4　今後の展望について教えてください。

　まちカフェ！の中で、まちサポの認知度を100%にする！というのが今年の夢です。多くの方にまちサポのことを知っていただき、新しい仲間を増やしていきたいです。



町田市地域活動
サポートオフィス

一般財団法人　町田市地域活動サポートオフィス
〒194-0013 東京都町田市原町田４丁目９－８
町田市民フォーラム4階
TEL：042-785-4871
メール：info@machida-support.or.jp